

2018
年度

南山大学・豊田工業大学 連携講演会

参加費無料

テーマ

「技術と倫理」の視点から 「持続可能な社会」を考える

日時・会場

12月22日(土) 10:00~12:30
(9:30開場)

豊田工業大学 南棟4A教室
名古屋市天白区久方2-12-1

スケジュール

開催挨拶

連携趣旨と
概要・実績等の紹介

講演 1

講演 2

質疑応答

講演 1

豊田工業大学 副学長
工学部 システム光波工学研究室
専門：システムフォトリソ・センサフォトリソ

保立 和夫 教授



持続可能社会の実現に向けた
構造物ヘルスマニタリングのための光ファイバ神経網技術

高速道路、橋梁・橋脚といった社会インフラなどの大型構造物を上手に健康診断して安全性と経済性を両立させつつ活用することは、省エネや安全・安心、そして持続可能社会の実現のために重要となっている。通信用の光ファイバは、実は優れたセンサでもある。長尺な光ファイバに沿う温度や歪の状況を、センチメートルの空間分解能で数キロメートルにわたって、分布的に計測できる技術が誕生している。光ファイバを大型構造物に張り巡らせて人体の神経のように作用させれば、構造物ヘルスマニタリングのための新たな技術となる。本講演では、この「光ファイバ神経網技術」の進展を概観する。

講演 2

南山大学社会倫理研究所 所長
人文学部 人類文化学科
専門：哲学・倫理学

奥田 太郎 教授



人間にとって持続可能であるとはいかなることか

人間の人生にせよ、社会にせよ、持続可能であることはよいことだと特に深く考えずに思っている人は少なくないだろう。志半ばに突然命を奪われる人生や、構成員が好き放題に行動して誰もいなくなる社会は望ましくないと考えることはきわめて自然なことであるように思える。しかし、延命措置によって命の持続可能性が見えてもおそれを拒む人生は時に肯定されるし、蕩尽の果てに草木一本残さずに消え去る社会に誠実さや清々しさを覚える人もいるだろう。「滅びの美学」という言葉もある。果たして、持続可能であるとは人間にとっていかなる意味をもつのだろうか。本講演では、この大きな問いに対してささやかな答えを提示してみたい。



【会場へのアクセス】

名古屋・金山駅方面から 地下鉄桜通線「相生山駅」下車、1番出口から徒歩10分。
豊田・赤池方面から 地下鉄鶴舞線「原駅」下車、2番出口から
市バス幹線1系統（相生山住宅・島田一ツ山行き）
「高坂小学校」下車、徒歩10分。

※駐車場の数に限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

申込方法 豊田工業大学ホームページの所定フォーム（暗号化SSL対応）からご応募ください。ご応募は、ハガキでも受け付けます（電話・FAXでは受け付けておりません）。いずれの場合も、参加希望者および同伴者（1名まで）の郵便番号、住所、氏名（フリガナ）、年齢、連絡先電話番号をご記入ください。

申込期限 2018年12月8日(土) 必着

定員 150名（参加費無料、事前申し込み制、応募者多数の場合は抽選を実施。当選者には開催1週間前を目途に招待券を送付。）

申込先 〒468-8511 名古屋市天白区久方2-12-1 豊田工業大学渉外広報グループ「連携講演会」係
ホームページ <https://www.toyota-ti.ac.jp>（イベント欄より）

お問合せ先：豊田工業大学渉外広報グループ／TEL 052-809-1764 南山大学学長室／TEL 052-832-3113

個人情報の取扱いについて…収集した個人情報は、受講・キャンセル受付、受講票の作成・発送、受講者リストの作成、講演会受付・今後の講演会開催のご案内のために利用します。なお、収集した個人情報は、受講票発送手続きのために委託業者にも提供いたします。



南山大学



豊田工業大学